

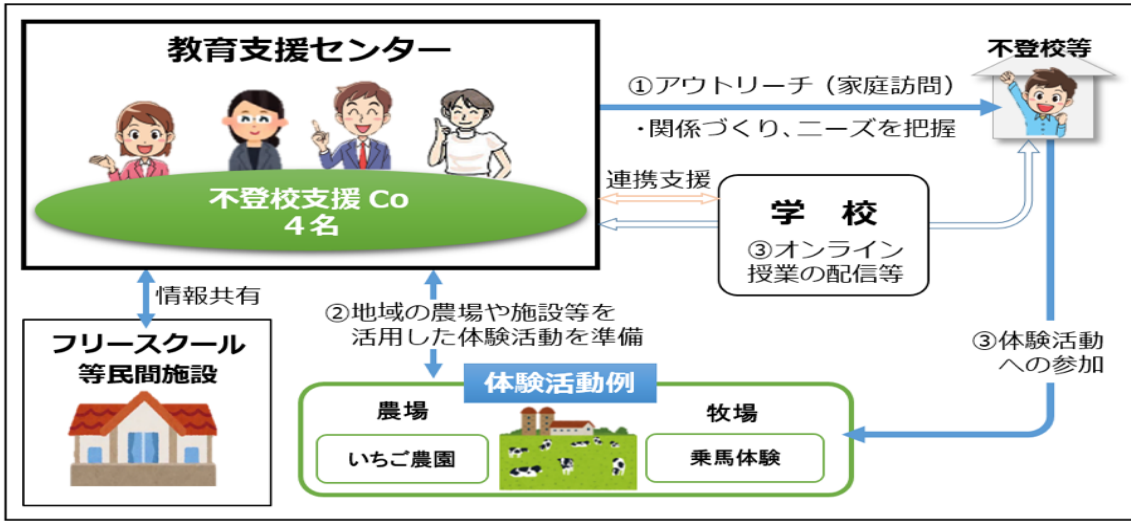
令和 4 年度不登校児童生徒に対する学びの継続支援事業 報告【概要】

心の支援課・次世代サポート課

1 小諸市

【R3 支援の仕組み】

不登校支援コーディネーター = 不登校支援 Co



【R4 支援の新たな仕組み】

- 興味関心に広くこたえられるよう、様々な体験活動を開拓し、活動実施
 - 野菜・いちご栽培、乗馬体験、料理教室、陶芸、手芸、ニュースポーツ、歴史探索など
- 一人一台端末を活用した学習の推進
 - 教育支援センターで自学を中心に進める。定期的に在籍校教員による訪問サポートを実施

<成果>

- ・口コミで広がり小学生を中心に新たに 11 名の子どもがセンターへ通室できるようになった。子どもたちは体験活動を通し、集団での活動の機会が増えるにつれ、表情が明るくなり集団の中で個性を発揮し、支援者に依存するのではなく、自分たちで活動を進めようという雰囲気がでてきている。
- ・支援を重ね、子どもたちの成長を目のあたりにする中で、「物事のとらえ方や見る視点が違う」「繊細で豊かな感性を持っている」等、その子の個性のすばらしい面が見えてきた。不登校の子どもへの我々支援者の視点が変容した。
- ・フリースクール訪問を通し情報共有とともに、センターでの支援についても参考とすることができた。
- ・中学生については、適切な評価につながるよう教育支援センターでの学びの様子を学校と共有することができた。

<課題>

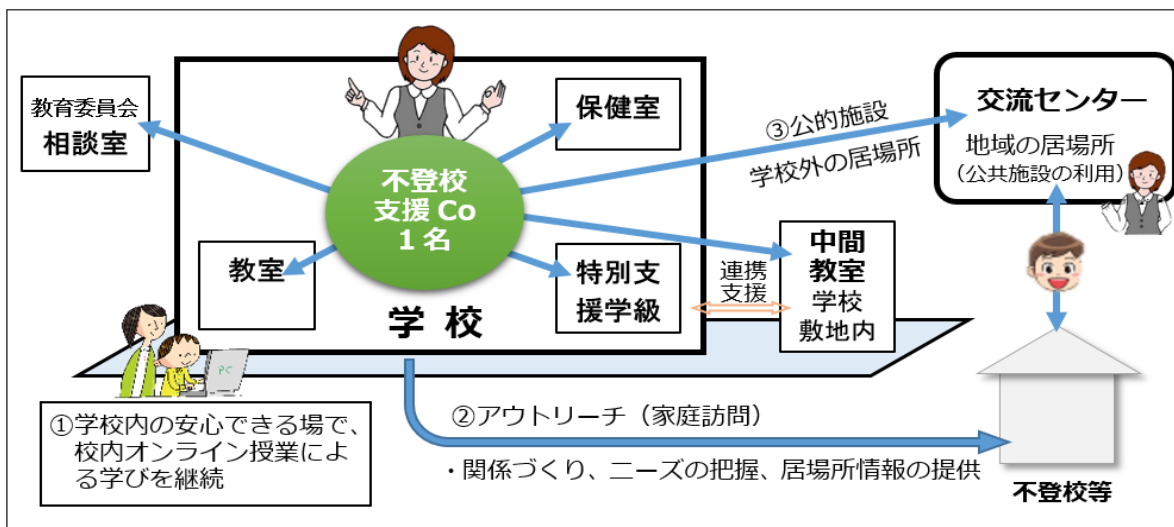
- ・体験活動を受け入れていただいた事業所には教育長から感謝状を贈呈させていただいたが、持続可能な活動とするためにも、講師謝礼や材料費などの経費の負担の範囲の検討も必要。

<今後の展開>

- ・取組により、多くの不登校であった子どもが自己肯定感を高めてきている。さらに本市の取組を発展させ、豊かな教育活動を展開したい。

2 千曲市

【R3 支援の仕組み】



【R4 支援の新たな仕組み】



○不登校支援コーディネーターが、早期支援の視点でのアウトリーチを実施

➤小学校からの引継ぎをもとに、不登校が長期化する前に本人支援へつなげる。

➤生徒との信頼関係作りのために、子どもの状況に合わせたメッセージカードを作成し、「ぬくもりが伝わる支援」「返事を求めない支援」を実施。

<成果>

- ・小学校で不登校傾向だった生徒に対し、入学後すぐに保護者と早期に関係作りを図ることで、中学校入学後のスムーズな支援につなげた。当初は本人と対面できなかったが、メッセージカードを送ったり、返事を求めない交換日記のやり取りを行ったりした。信頼関係が構築され、心のエネルギーが充電され、地域での活動への参加など社会的な自立に向けた次の一歩への活動につながった。
- ・生徒が自宅で取り組んでいる学習へ評価の言葉がけを継続して行っていくことで、学習への自信も付き、学習意欲が高まった。教科のプリント学習にも積極的に取り組んでいる。

<課題>

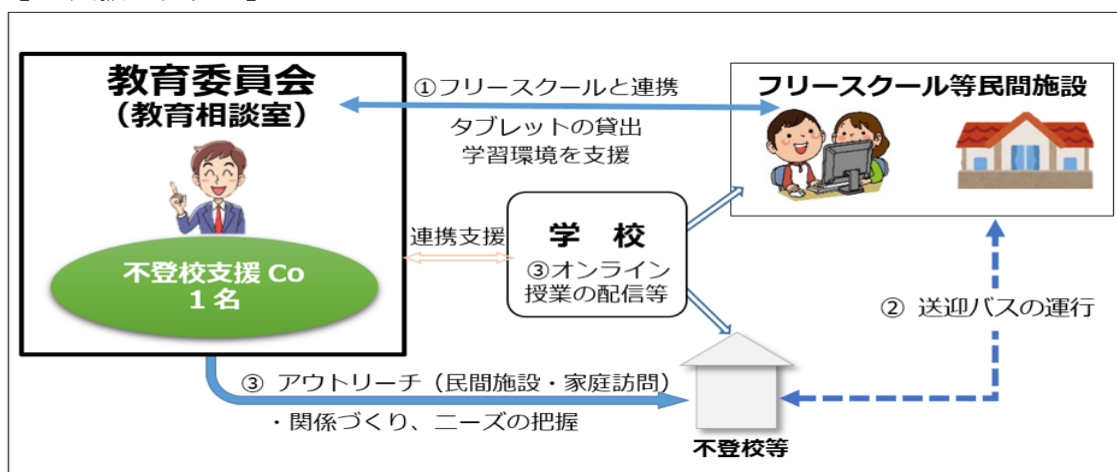
- ・学習支援にどうつなげていくか。オンラインで授業が配信できる環境は整っているが、自宅等での授業配信を希望する生徒はまだいない。心のエネルギーをためることがまず必要である。

<今後の展開>

- ・個々のニーズに対応した丁寧な支援を継続し、様々な学びの場や学びの方法へのコーディネートを行いたい。
- ・アウトリーチ支援を小学校にまで広げ、早期支援につなげたい。

3 松川町

【R3 支援の仕組み】



【R4 支援の新たな仕組み】

○フリースクールとの連携の強化

- 不登校支援コーディネーターがフリースクールのスタッフ会議に定期的に参加
- スタッフ会議に参加し、通室児童生徒の支援ニーズを素早くキャッチ。個別の学習支援やスポーツ活動やボランティア活動への協力

<成果>

- ・定期的にスタッフ会議に参加することで、通室児童生徒の支援ニーズを素早くキャッチし、学習備品の貸出し、町施設の利用や定期テスト実施場所等の検討など、フリースクールと行政や学校とをつなぐ役割が可能となった。
- ・フリースクールを訪問して学習支援をする中で、児童生徒の学習意欲が高まり、特に中3生は卒業後の進学に向けて学習に向かう姿勢がより主体的になってきている。
- ・フリースクールでのスポーツ活動やボランティア活動をサポートする中で、異年齢集団での人間関係づくりが図られ、自己肯定感が高まってきている。
- ・フリースクールでの個々の学習状況を学校と情報連携し、学校が評価等に反映できるようにしている。
- ・教育委員会の専用車によるフリースクールへの送迎や、利用料を教育委員会が補助することにより、保護者の負担軽減になっている。

<課題>

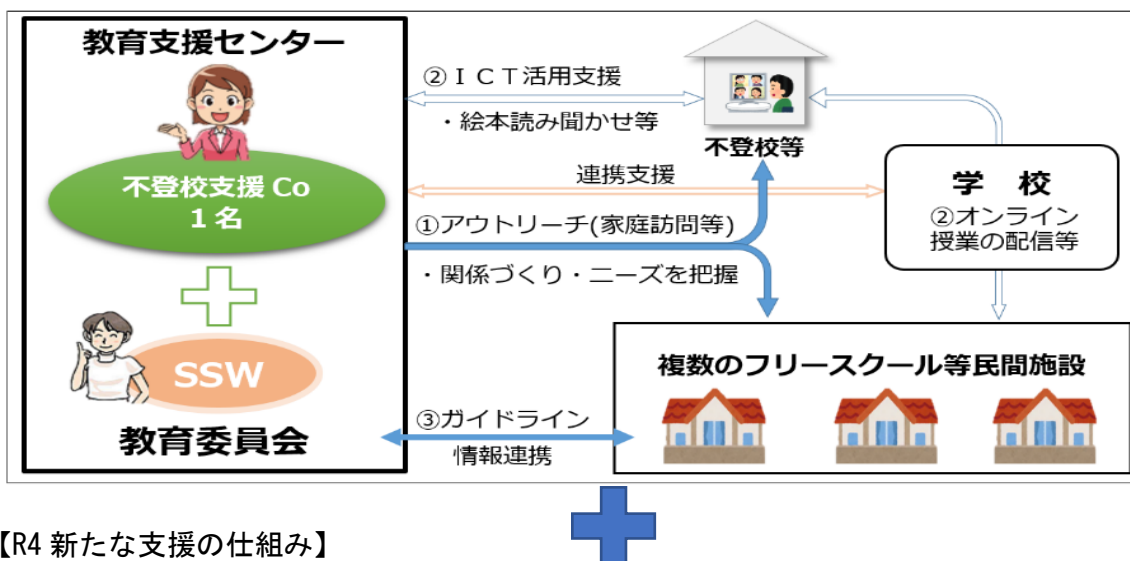
- ・不登校支援 Co と不登校児童生徒、保護者と新たにつながるまでには保護者の意向もあり時間がかかる。
- ・マンパワーに限られるため、個々の生徒のニーズに応じたタイムリーな学習支援ができない場合もあり、調整が難しい。

<今後の展開>

- ・不登校支援 Co のフリースクールのスタッフ会議への参加、フリースクールを訪問しての学習支援、フリースクールのスポーツ活動への協力等、構築した仕組みを次年度以降も継続。

4 安曇野市

【R3 支援の仕組み】



【R4 新たな支援の仕組み】

○教育支援センターを中核にした支援の機能拡充

- アウトリーチ支援をした子供が参加する体験活動の実施（地域めぐり、工場見学、畑仕事、高校見学）
- 不登校児童生徒自宅とオンラインでつなぐオンライン支援（児童生徒・保護者）の実施

<成果>

- ・学校の支援が届きにくい不登校児童生徒への定期的・継続的支援は、次のステップにつながる成果が多にあった。教育支援センターが不登校児童生徒の拠点となっており、学校と家庭の中間的な役割としての安全基地となっている。
- ・体験活動をコーディネートし、個々のニーズに合わせた体験活動を数多く実施。不登校児童生徒にとって新たな挑戦、新たな興味のきっかけとなった。
- ・教育支援センターと不登校児童生徒自宅を一人一台端末でつなぎ、アプリ等でのかわりを継続して行うなど、個別のニーズへ対応した支援が継続してできてきている。保護者との懇談会もオンラインで実施。保護者の不安軽減につながっている。

<課題>

- ・ICT支援について、オンラインで授業が配信できる環境は整っているが、子どもたちからの学習ニーズはあまり上がってこない。支援当初は学習面へのニーズは高くはない。
- ・引き続き、教育支援センターや体験活動場所までの送迎が課題となっている。

<今後の展開>

- ・体験活動の機会増、リモート学習の支援、管内小・中学校の校内中間教室支援、連携強化やSSW・SCを活用した支援等、市教育支援センターを拠点とした支援の充実をはかる。
- ・アウトリーチ支援の継続を図り、不登校支援Coだけでなくセンター指導員によるアウトリーチ支援を実施し、支援対象件数を増やしていく。
- ・民間施設との連携強化のため、新たに民間施設との連携を主としたコーディネーターを配置。定期的な訪問による情報共有や意見交換等実施。